PRESS RELEASE

2021年1月14日

株式会社 安福又四郎商店

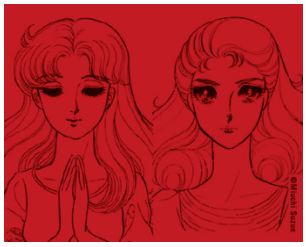
神に捧げる日本酒！「ガラスの仮面」の作中劇“紅天女”、コロナ禍の終息を願い1月16日にリニューアル販売

創業270周年を迎えた灘の酒蔵・株式会社安福又四郎商店(所在地：兵庫県神戸市、代表者：安福晴久)は、漫画家・美内すずえと共に、阪神・淡路大震災の復興を掲げ1997年に限定流通で販売していた日本酒「紅天女」(読み：くれないてんにょ)を、この度コロナ禍の終息を願って、2021年1月16日(土)より装いも一新しリニューアル販売することをお知らせいたします。

■『ガラスの仮面』の「紅天女」とは、荒れた世を光で包み込む天地和合の女神

現在50巻の発売が待望されている美内すずえの漫画『ガラスの仮面』で、メインストーリーとして主人公の北島マヤ・ライバルの姫川亜弓が主演を争っているのが『紅天女』という作中劇。

その物語は、荒れた世を治めるために一人の仏師が「紅天女の仏像」を彫るための梅の樹を探して旅立ち、紅の谷にいる不思議な乙女と出会うところから始まります。その乙女は、天と地の声を聴き、荒れた世を光で包み込むと言われる“1000年の梅の樹の精霊”＝紅天女でした。



（北島マヤと姫川亜弓）

■酒蔵と漫画家の縁を結んだのは、「紅天女」の姿をもたらした一枚の梅の樹の写真

『ガラスの仮面』の作者・美内すずえは、『紅天女』の章にさしかかったあたりで、いずれ登場するであろう「紅天女の仏像」を描こうとして姿が浮かばず、筆がとまっていたと言います。

そして阪神・淡路大震災の復興支援のために神戸を訪れた際、初めての蔵元との対面で蔵元が見せた「庭の梅の古木の写真」を見て驚嘆。その写真に写る、どうみても観音像にしか見えない梅の樹が、美内すずえに初めて「紅天女」の姿を見せました。

その後動き出した『ガラスの仮面』の物語。蔵元・安福又四郎商店と美内すずえは、日本酒「紅天女」を造ることを決めました。

（左）美内すずえに「紅天女」のイメージをもらたした、蔵元の庭の写真。中央右手に観音像のように見えるのが、梅の古木。

（右）その後、美内すずえにより描き下ろされた「紅天女」のイメージ原画（日付は1997.9.17）。日本酒「紅天女」初回発売時よりラベルに使用。

■1997年は阪神・淡路大震災からの復興を、2021年はコロナ禍の終息を祈願して発売

日本酒「紅天女」が初めて発売されたのは、1997年。1995年に起きた阪神・淡路大震災で酒蔵が全ての木造蔵を失ってから3年目、神戸が復興に向けてまだ暗く長い道のりを歩み始めた頃でした。

それから24年。復興を果たした神戸を、そして日本を、世界を、100年に一度の危機が襲っています。感染症による健康被害だけではない、経済への不安、生活の変化…
このコロナ禍の終息を願い、荒れた世を光で照らすという「紅天女」を、今再び世に送り出すことといたしました。

■日本酒は、“神に捧げるお酒”として、自然の力を借り、手造りした「純米吟醸酒」

日本酒「紅天女」は、凛とした味わいに深い米の旨みを感じられる純米吟醸酒です。

全て人の手で醸造し、灘の酒造名水「宮水」と、米は山田錦の系譜である兵庫県産「兵庫夢錦」を使用、六甲山から吹き降ろす風「六甲おろし」の力を借り、しぼりたての酒に「火入れ」をして1年以上熟成させることで、完成しました。

（洗米や蒸し上がった酒米の放冷も、繊細な手作業で調整）

■パッケージデザインは、ブックデザインを得意とする「祖父江慎+コズフィッシュ」

リニューアルデザインを担当したのは、世界観の体現を得意とし、ブックデザインや展覧会グラフィックなどで名を馳せるアートディレクター祖父江慎と、グラフィックデザイナー脇田あすか（cozfish）。
全国で開催された「ガラスの仮面展」のアートディレクションもつとめ、今回、「神さまと人をむすぶお酒ですから、神事などの行事にも似合うように」として創り上げられました。

（ラベルは、紅天女が金に輝く光のイメージに）

■美内すずえ先生からのメッセージ

「太陽・空気・大地・水など自然界の恵みを集約した「酒造り」は二千年前の大和時代には重要な神事でした。ですから、この『紅天女』は天地の恵みである“米”そして“水”を大切にした、神に捧げる高貴なお酒であってほしいと思います。お酒は自然界の恵みのエッセンスであり、日本文化のエッセンスでもあります。これらの意味からも『紅天女』は〝自然回帰を促し、自然に感謝する象徴“であることを思いながら、味わっていただきたいお酒です。」

■販売概要

【名　称】純米吟醸酒「紅天女」
【原材料】米、米麹（全て兵庫県産）
【容　量】720ml
【価　格】2,800円（税込希望小売価格）
【発売日】2021年1月16日（土）
【発売場所】
・＜蔵元直営オンラインショップ「十一代目又四郎」＞
https://11th.matashiro.jp/
・＜蔵元直営ショップ「十一代目又四郎」＞
住所：〒658-0044　兵庫県神戸市東灘区御影塚町1-5-23
営業時間：平日10：00-17：00（土日祝は定休）
インスタグラム：@matashiro_brewery
・＜取り扱い酒販店様＞

（箱入り）

※問屋・酒販店様によるお取扱いのご相談は、（Mail：daikoku.m@gmail.com）よりお問い合わせください。

■会社概要

□会社名：株式会社 安福又四郎商店
□代表者：安福 晴久
□所在地：〒658-0044
兵庫県神戸市東灘区御影塚町1-5-23
tel 078-851-0151 / fax 078-851-0156
□URL　:https://www.matashiro.jp/
□事業内容：清酒製造業
□代表銘柄:「大黒正宗」
□創業年：1751年
□設立年：1945年
□資本金：1,000万円
□従業員：5名
□醸造責任者：井上　健一郎

（直営ショップ「十一代目又四郎」）

…今年で創業270周年を迎える灘五郷（御影）の日本酒蔵。兵庫県産の酒米、灘の酒造名水「宮水」を使用し、手造りでの少量生産を行う。
1995年の阪神・淡路大震災で木造蔵が全て倒壊。最後に残った鉄筋蔵が2013年に寿命を迎え廃業の危機を迎えるが、同 灘五郷の白鶴酒造により蔵設備の共同使用を提案され、白鶴酒造の二号蔵内にて酒造りを継続している。

美内すずえ（漫画家）
大阪府生まれ。高校2年の時、「山の月と子だぬきと」でデビュー。1976年より「花とゆめ」にて『ガラスの仮面』の連載をスタートし、開始直後からベストセラーとなる。累計部数は五千万部を超え、少女漫画史上に名を残すロングセラー作品として継続中。各界から支持を受け、アニメ・舞台・テレビドラマ化もされている。ほかにも『黒百合の系図』『妖鬼妃伝』『聖アリス帝国』など著書多数。『妖鬼妃伝』で1982年度講談社漫画賞、『ガラスの仮面』で1995年度日本漫画家協会賞優秀賞を受賞。

祖父江慎
1959年、愛知県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科中退。コズフィッシュ代表。アートディレクター。すべての印刷されたものに対する並はずれた「うっとり力」をもって、日本のブックデザインの最前線で幅広いジャンルを手がけている。スヌーピーミュージアム東京、ミッフィー展、ガラスの仮面展ほかの展覧会グラフィック、グッズデザインにも力を発揮する。過去の仕事をまとめた『祖父江 慎＋cozfish』（PIE BOOKS）は絶賛発売中。AGI、TDC会員。

脇田あすか
1993年生まれ、愛知県出身。グラフィックデザイナー。東京藝術大学デザイン科大学院を卒業後、コズフィッシュに所属。展覧会や書籍のデザインに携わりながら、豊かな生活をおくることにつとめる。過去の仕事にPARCOの広告、雑誌『装苑』のデザイン、ドラえもん50周年ポスターなど。また個人でもアートブックやスカーフなどの作品を制作・発表をしている。’19年に作品集「HAPPENING」出版。instagram @wakidaasuka

【本件に関するお問合せ先】

株式会社 安福又四郎商店　企画・広報担当：安福　愛
携帯：090-8365-9021
TEL：078-851-0151　FAX：078-851-0156
E-mail：11th.matashiro@gmail.com

※高解像度画像リンク
https://drive.google.com/drive/folders/1TEk33BPdLqyDhHcvojIcEkPjUP253m9g?usp=sharing